

2021年10月

藤原直哉の学びのカフェ

再開された秋の遠山郷・講演と観光と人情と



研修日程：2021年10月30日（土）・31日（日）

研修場所：長野県飯田市南信濃地区（遠山郷）

研修企画：株式会社あえるば

旅行企画・実施：株式会社南信州観光公社

<1. ご案内>

みなさん、すっかりご無沙汰しておりました。新型コロナが、そろりと明けようとしていますが、お元気にお過ごしでしょうか。

全国の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除されたことを受けて、南信州遠山郷で行われている「藤原直哉の学びのカフェ@遠山郷」を再開いたします。

今回のテーマは、「再開された秋の遠山郷・講演と観光と人情と」とします。コロナで2年ほどお休みだった遠山郷ツアーの再開第1回です。どうぞみなさんおいでください。

2日間のツアーで、1日目の午後が木澤小学校で藤原直哉の講演、2日目の午前が遠山郷の歴史と自然を観光、午後が遠山郷の方々と人情の懇親、という豪華なメニューです。今回の1日目に行う講演は「遠山郷の歴史と現在から見える日本と世界の未来」です。実は今から28年前、私は『歴史の彼岸』という遠山郷を題材にした短い小説を書きました。今のわれわれは、歴史の断層の真上を歴史の彼岸へとちょうど渡ったところです。その小説の先にある日本と世界の未来はどうなるのか、大胆に予想してお話します。以下、その『歴史の彼岸』です。

雨宮浩一郎はふと何年か前、八ヶ岳の麓で縄文時代の遺跡を見たときのことを思い出した。

山の麓のたいへん見晴らしが利く緩やかな傾斜地に、その遺跡はあった。遺跡は一万年前の街の痕跡だった。

身を切るように冷たい早春の疾風が吹き抜けるなか、透き通るような陽光を浴びて、遺跡は凜とたたずんでいた。

この街は落人の街だった。今から一万年、遠くペルシャから落ちのびてきた人たちが住みついた街だった。彼らはここで七千年暮らした。土でつくった器や人形は、失われた遠い故郷への思いでいっぱいだった。数千キロの彼方から一万年前にやってきて、七千年暮らして、三千年前に忽然と消えてしまった。一万年と三千年前、ここで人は今とおなじ早春の疾風と透き通るような陽光を浴びながら、新しい日常へと旅立っていった。

歴史には断層がある。しかし断層の上にも人は住んでいる。断層の上に住んでいる人には、新しい日常をつくる義務がある。運・不運の問題ではない。

浩一郎は思い出したように山道を急いだ。もう娘を小学校に送り届ける時間である。今朝はずいぶん長い散策をしてしまった。

遠山谷の朝は遅い。細長く落ち込んだ谷底のわが家に陽がさすのは、九時を過ぎてからである。

浩一郎は子供のときからこの遠山谷に住む自分が見えていた。都市が減じる。都市が壊れる。都市に危険を感じたらここに来よう。そう昔から考えていた。しかしそれは遠い将来のことだと思っていた。

ところがある日、いつものように一家揃って朝御飯を食べていたら、今日と明日の間に不思議な時間の壁があるのに気がついた。不思議な時間の壁が見えた。何が不思議かって、明日があるのに、壁のこちら側から明日を見ても明日が見えないのである。

この変な気持ち、むかししかどこかで経験したことがある。そう、アメリカの会社で仕事をしていたときだ。いつものようにいつもの仕事をしていたら、ある日突然恐怖と嫌悪感を感じた。アメリカが壊れてしまう。そう感じた。そう感じたら居ても立ってもいられなくなった。それで会社を辞めたんだっけ。

その次の日、あつけにとられて声も出ない妻と娘を引きずって、浩一郎は遠山谷へとやってきた。

都市とその周縁部では、長く出口のない不況による街の荒廃が続いている。デフレに耐えられない人たちは、みんな大陸へ渡って行った。あちらは大変なブームらしい。世界中からカネを求める人たちがやってきているようだ。しかしあちらでひと財産つくって凱旋してきた人には、まだ一度も会ったことがない。みんな元気であればよいのだが。

学校までの道は広い舗装道路を車で飛ばして五分である。不況対策で、この秘境の道も随分と整備された。生活基盤がどんどん整っていく。デフレだから相当安い費用で工事ができる。秘境が秘境でなくなることは悲しいが、狭く凍りついた道で車を谷底に落とす危険を考えれば、ありがたいことだ。

家族のなかで遠山谷をいちばん気に入っているのは、浩一郎の娘かもしれない。昔は山村の分校といえ、一種軽蔑された

存在であった。しかし今では正反対である。山奥に住みながら生計を立てることができる。これが経済的にも精神的にもそして健康的にも、現在最も贅沢なライフスタイルである。人々のあこがれの的でもある。

浩一郎に似て独立独行の娘にとっては、自然がもっとも親しい友人らしい。小学校の授業にも、自然観察や農作業がある。子供のうちは飽きるまで自然と戯れさせておこう。飽きて人が恋しくなったら、東京でも上海でもイスタンブールでも、行きたいところに行かせてやろう。好きなようにすればよい。

浩一郎は校門で娘を下ろしてから、電車の駅まで谷底の道をさらに車を飛ばした。

川の水は少し緑がかった灰色の太い帯となって、滔々と流れている。小川のせせらぎというには、あまりにも迫力がありすぎる。早春の雪解け水を集めてほとぼしる川の流れは、山の力の偉大さを人間に見せつける。山も川も森も生きている。すごいエネルギーだ。

電車はホームの端の黒い穴から、まぶしいライトを左右に揺すって、ゴトゴトと出てきた。このあたりの線路はトンネルが続く。

浩一郎は物心ついた時から、将来は電車の運転士になるのだと決めていた。その決心は小学校を卒業するときも中学校を卒業するときも変わらなかった。高校を卒業するときも変わらなかった。そして大学を卒業するときも、変わらなかった。ところが大学を卒業するとき、時の国鉄はこの前の前の大戦後初めて、文科系の大学生の採用を見送った。電車の運転士になる夢は終わった。だったら何でもいいや。浩一郎の社会人人生は、そこからはじまった。

浩一郎は東京駐在の社員三人を車に乗せると、もと来た道を谷の懐深く遡っていった。月に一度の社員懇話会である。もう何年続けているのか、だれも覚えていない。無限に長い時間続けるということは、無限に短い時間内に自己完結させることとおなじである。いつはじめたか、いつ終わるか、無限に長い時間を考えるときには意味がない。生きている人間にとって、歴史の断層と断層の間の時間は、無限に長い。

社員懇話会はしらびそ山荘で開くと決めている。遠山谷の突き当たりから山の斜面を強引に登った見晴らしのよい尾根に、その山荘はある。目の前に南アルプスの壮大な連山が広がり、最初にこの景色を目にした人は、だれでも息を呑む。赤石岳は本当に赤いのだと妙な感心をする。

何十年も前、最初にここを自転車で訪れたときのことを思い出す。夕食に出された山女に感激して、これは遠山谷で採れたものですかと聞いたら、下の店で買ってきたものだと言えが返ってきた。体の緊張が一挙に解けて、心が温かくなるのを感じた。山荘の前の庭には、やはり何十年も前に遠山谷の谷底を走っていた森林鉄道の機関車と客車が置いてある。役目を終えて、文字どおり昇天した連中である。

情報伝達技術の進歩で、もっとも変わったのは山村だ。都会の真んなかにも山村にいても、入ってくる情報の量と質にあまり差はない。電話は世界中どこにいても衛星経由の携帯電話で自由に通話できる。衛星は山村の通信に革命を起こした。テレビやラジオの難視聴などという言葉は死語になり、新聞も衛星経由のファックスで、最新のものが送られてくる。山村は第一次産業の地域、これが近代になって数百年の世界の常識であった。しかし今は違う。山村は情報産業の中心地である。小さなパソコンと通信手段と、あとは考える頭さえあればできる商売は、みんな都市を逃げ出して山村にやってきた。浩一郎もそのひとりである。まだ人が恋しくて暴れたい連中を、東京駐在に置いている。普段の仕事は電話とファックスとパソコン通信、それに静かに考えをめぐらす時間と、時折書く手紙でこと足りる。そして月一回彼らを遠山に集めて無駄話をする。ただそれだけである。浩一郎はこんな生活が気に入っている。

夕方になって雲が出てきた。聖岳の頂上からすると雲が湧いてきて、目の前の山々を白く厚い緞帳が隠していく。山荘の周りにも、ひんやりと冷たい白く微細な水滴が充満して、天地の境目がよくわからなくなる。今何時頃だろう。

懇話会のある日は娘は歩いて家に帰る。浩一郎は社員三人と山荘に一泊する。懇話会には一切の文明利器は持ち込まない決まりである。時計も電話もファックスもパソコンも、紙も鉛筆も持ち込まない。山のリズムに合わせて呑んで食べて、川と森と動物の声を聴きながら、無駄話をする。そして眠くなったら寝る。

浩一郎は遠山谷に来て、これまでの近代という時代がどういう時代だったのか、何となく解ったような気がしている。近代はどこからはじまったのか。それはきっと山に人が住むには、人が多すぎてしまうところからはじまったのだと思う。それは定義上の近代の、もっと昔の出来事である。止むに止まれぬ事情から人が山に見切りをつけたところから、すべてがはじまった。

彼らは山を捨て、まず平地で農業を営んだ。食べるためには積極的に自然に働きかけなければならない。そういう厳しい時代がはじまった。しかしさらに人口が多くなりすぎて、それでも食べられなくなった。そこで工業をはじめた。増え続ける人口に安定的に満腹感と安全を供給するためには、農業だけでは無理だった。人は自然を越えようともがいた。かぎりなく冷静に頭を働かせ、緻密な科学技術の体系をつくり上げた。このあたりが定義上の近代のはじまりである。

科学技術はのんびり自然に調和して生きる人間の頭から出てくるような、生やさしいものではない。自分は人間ではないという絶望的な自己否定の代償として生まれたものである。科学技術は工業を生んだ。工業は人々に新しい世界を開いた。新しい世界地図は、新しい世界をつくった人を書く権利がある。より安定的な満腹感と安全を求めて、世界は空前の椅子取りゲームをはじめた。

貨幣が近代らしい貨幣に変身するのも、近代という時代が椅子取りゲームの時代だったからである。近代らしい貨幣、それは人より多く蓄えることに深い意味がある貨幣である。人より多く貨幣を蓄えて何をするのか。椅子を買うのである。椅子取りゲームの椅子は貨幣で買うのである。

しかしこの椅子は一度買えばいつまでも持っていられるというほど安泰なものではない。椅子を買って相手に渡した貨幣はめぐりめぐってより高い価格で椅子を買い取ろうという人の手に渡る。彼らは今の椅子の持ち主から、より高い価格で椅子を買う。そして貨幣はまた次に椅子を狙う人の手に渡る。この椅子取りゲームの椅子、それは権力と呼んでもよいかもしれないが、本質的にはより安定的に満腹感と安全を享受する権利のことである。要は近代という時代は、生きている人間全部に満腹感と安全を供給できないことから生まれたのである。

近代の最後に見えた姿は、とんでもない貧富の格差だった。椅子取りゲームの椅子が高くなりすぎて、椅子を買うことができるごく少数の人と、いつまでたっても椅子にありつけない人との間で争いが起きた。何百年の怨念が、世界を戦乱の柑堀に陥れた。日本にも火の粉が飛んできた。

浩一郎は一応そこまで覚えている。しかしそれから先世界がどうなったのか、不思議なことに覚えてない。遠山谷に来てから忘れてしまった。遠山谷で過ごした何年かの間に、歴史の断層があったようだ。時間の不連続があったような気がする。

雨宮浩一郎、彼はいま歴史の断層の向こう岸にいる。それは未来のあなたの姿なのかもしれない。

交通のご案内です。電車でお越しの方は、まずＪＲ飯田線の平岡駅までお越しく下さい。

東京方面からお越しの方は、東京 8 時 33 分発のひかり 505 号にご乗車いただき、豊橋でＪＲ 飯田線の特急伊那路 1 号に乗り換えていただくと、平岡に 11 時 57 分に到着します。

平岡駅から集合場所の道の駅「遠山郷」内にあるかぐらの湯バス停までは、乗り合いタクシーをご利用ください。所要時間約 20 分です。下車後改札を抜け、駅階段を下って駅前広場に出てください。そこでバンタイプの乗合タクシーにお乗りください。平岡駅の予定発車時刻は 12 時 10 分、かぐらの湯には 12 時 30 分に到着です。

料金はお 1 人 600 円です。そして終点のかぐらの湯バス停の目の前が、集合場所のアンバマイ館です。

また自家用車でお越しの方は、中央自動車道の飯田インターチェンジから約 1 時間です。カーナビで「かぐらの湯」を設定いただくと、他のインターチェンジが表示される場合がありますが、飯田インターで降りていただく方が道も整備されており運転もしやすいかと思われます。

日曜のお帰りですが、16 時 00 分に木沢小学校で解散となります。電車でお越しの方は、道の駅「遠山郷」のバス停までお送りいたします。そちらから、16 時 15 分発平岡駅行きバスにお乗りください。バスは、16 時 36 分に駅に到着いたしますので、東京方面にお帰りの方は、16 時 42 分平岡駅発の特急伊那路 4 号で豊橋に行き、豊橋からひかり 530 号に乗り換えて、東京には 20 時 10 分に到着という行程がよろしいかとお思います。

2021 年 10 月吉日
株式会社あえるば（旧社名 シンクタンク藤原事務所）
会長・経済アナリスト 藤原直哉

<2. 研修日程表>

10月30日（土）

時間	予定	写真
12:30	道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館に集合 研修の説明と参加者の自己紹介、スタッフ挨拶	
12:45	道の駅「遠山郷」内「元屋」にて	
13:30	旧木沢小学校へ。到着後、校内見学	
14:00~17:00	講演 「遠山郷の歴史と現在から見える日本と世界の未来」	
17:45	道の駅内「かぐら山荘」チェックイン チェックイン後、「かぐらの湯」で入浴	
18:30	「かぐら山荘」にて夕食および懇親会 ・ <u>朝晩は肌寒くなりますので、上着をご持参ください。</u>	
		
		旧木沢小学校
		
		かぐら山荘

10月31日(日)

時間	予定	写真
7:00	かぐら山荘にて朝食	 観音霊水
8:00	出発。和田地区見学。	
8:45	埋没木 → 熊野神社 → 中郷流宮岩(2億年前の岩) → 程野断層 見学	
12:30～	熊谷次郎さん宅にて懇親会	 熊野神社
15:00	出発	
16:00	旧木沢小学校到着。解散。	
	・ <u>歩きやすい服装でお越しください。</u> ・ <u>悪天候の場合は臨機応変に対応させていただきます。</u> ・ <u>観音霊水(和田地区の湧水)を汲んで帰られる方は、別にペットボトルやポリタンをご用意下さい。</u> ・ <u>電車でお越しの方は、解散後に道の駅バス停までお送りします。</u> ・ <u>道の駅 16:15 発 → 平岡駅豊橋方面特急平岡 16:42 発です。</u>	 中央構造線程野露頭  熊谷治郎さんのお宅にて

<3. 研修費用> (消費税込み)

大人 1名 (中学生以上)	48,000 円
子供 (小学生以下) 1名	上記の価格の半額
なお、お食事とお布団、バスの座席の事前のご用意が必要でない乳児は無料です。	

(1) 研修費用に含まれるもの

・ 宿泊料金	原則として相部屋です。ご家族での一部屋でのお泊りはできる限り配慮させていただきますが、保証はできませんのでご容赦ください。宿泊は、 かぐら山荘 〒399-1311 長野県飯田市南信濃和田 561 TEL 0260-34-5777
・ 食事料金	日程表に記載された昼食 2 回、夕食および懇親会 1 回、朝食 1 回 (なお子供料金にてご参加の方は、1 日目の夕食がお子様定食になります)
・ 入浴料 ・ 入館料 ・ 講演料 ・ ガイド料 ・ 管理料 ・ 鉄道・バス費用 ・ 旅行保険料	日程表に記載された施設での入浴料、入館料、講演料、ガイド料、旧木沢小学校管理料、日程表内の貸切タクシー交通費、下記旅行保険料は研修費用に含まれています。
・ 研修講師	株式会社あえるば (旧社名 シンクタンク藤原事務所) 藤原直哉
・ 旅行保険	(限度額お一人様死亡後遺障害 1 千万円) 入院 4,000 円 通院 2,500 円補償

(2) 研修費用に含まれないもの

・ 個人的性質の費用	タバコ、洗濯、電報電話、お酒・ジュース等の飲み物、お土産、個人の飲食などは個人負担をお願いします
------------	--

<4. 旅行手配>

株式会社 南信州観光公社	〒395-0152 長野県飯田市育良 1-2-1 りんごの里内 TEL: 0265-28-1747 FAX: 0265-28-1748 営業時間: 8:30 ~17:30 総合旅行業務取扱管理者: 高橋 充	長野県知事登録旅行業 : 第 2-431 号 社団法人全国旅行業協会正会員
-----------------	--	---

<5. 研修要領>

募集人員	10名（最小催行人数1名） 参加申込書を株式会社南信州観光公社宛てにお送りください（FAX または郵送でお願いします）。 お申し込みは10月15日(金)までにお願いいたします。	
研修代金	●募集型企画旅行契約：①この旅行は、(株)南信州観光公社が旅行実施し、参加者は当社と募集型企画旅行契約を締結します。②募集型企画旅行契約の内容は、出発前にお渡しする「ご案内」（最終旅程表）によります。条件は旅行条件書を当社ホームページでご確認いただくか、必要に応じて書面をお送りします。 ●参加申込書に基づき、旅行開始日の10日前後を目安に参加証・請求書等を作成してお送りします。請求書到着後5日以内に指定の銀行口座へ全額お振込みください。振込み手数料はお客様負担にてお願いいたします。領収書について所定の様式が必要な方は予めファックスにてお知らせください。 ●最小催行人員にならない場合は中止する場合があります。また、当日の気象、諸状況によりコースの変更や中止となる場合がありますのでご了承下さい。	
取消料	契約者が都合により契約を解除する場合	
	取消日 10～8日前	参加費用の20%
	取消日 7～2日前	参加費用の30%
	出発日の前日	参加費用の40%
	出発日の当日	参加費用の50%
	研修開始後又は無連絡不参加の場合	参加費用の100%
	※お申込内容の変更又は取消をされる場合は、必ずファックス又は郵送にてご連絡ください。電話のお問合せはご遠慮ください。	
研修企画（お問い合わせ）	株式会社あえるば 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町 2-13-12 ASUKA ビル 2F 電話 0465-44-4750 FAX 0465-44-4751 電子メール iwamoto@aeruba.co.jp 担当 岩本寛（いわもと ひろし） <u>なお、当日の緊急連絡は、岩本寛の携帯電話へお願いします。</u> <u>080-9214-0563</u>	

<6. 研修概要>

・ 研修名称	2021 年 10 月 藤原直哉の学びのカフェ
・ 日時	2021 年 10 月 30 日（土）・31 日（日）の 2 日間
・ 研修場所	長野県飯田市南信濃地区および下伊那郡
・ 集合・解散場所	集合：10 月 30 日（土）12：30 道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館 解散：10 月 31 日（日）16：00 旧木沢小学校 なお、当日の緊急連絡は、岩本寛の携帯電話へお願いします。 <u>080-9214-0563</u>
・ 研修内容	各種見学、体験、講演、学習など
・ 研修講師	株式会社あえるば(旧社名 シンクタンク藤原事務所 藤原直哉 および地元、学校スタッフ

<7. 現地集合・解散場所まで／からの自家用車、電車での交通手段（ご参考）>

(1) 自家用車でお越しの場合	集合場所： 長野県飯田市南信濃和田 548-1 道の駅「遠山郷」内、 観光案内所「アンバマイ館」（かぐらの湯バス停目の前） （電話 0260-34-1071） 中央高速道 飯田、松川インターチェンジから約 1 時間 中央高速道 飯田山本インターチェンジから約 1 時間 新東名高速道 浜松いなさ JCT → 三遠南信道鳳来峡 IC から約 2 時間
(2) 電車でお越しの場合	東京方面から （行き） 東京 8:33 ひかり 505 号 豊橋 9:56 豊橋 10:08 特急伊那路 1 号 平岡 11:57 下車後、かぐらの湯まで乗合タクシーで 20 分 お一人 600 円 （帰り）かぐらの湯 16:15 発 かぐらの湯から平岡駅まで乗合タクシーで 20 分 平岡 16:42 特急伊那路 4 号 豊橋 18:31 豊橋 18:47 ひかり 530 号 東京 20:10

<8. 注意事項、および持ち物など>

- ・ 朝夕は冷え込む場合もありますので、上着をお持ちください。
- ・ 動きやすい服装をお持ちください。
- ・ 観音霊水を汲んで帰られる方は、別にペットボトルやポリタンをご用意下さい。
- ・ 携帯電話は、電波が届かない場所があります。

<9. 観光タクシー運行>

アップルキャブ南信州タクシー有限公司

〒395-0153 長野県飯田市上殿岡 717-4 TEL 0265-28-2800

申 込 書

2021年10月 藤原直哉の学びのカフェ 10月30日・31日 ご記入日： 年 月 日

選択してください

・お車でご参加

・電車でご参加

フリガナ				性別	男 ・ 女
お名前				生年 月日	明・大・昭・平（西暦 年） 年 月 日（満 歳）
弊社お客様番号（おわかりになる場合）					
フリガナ				性別	男 ・ 女
お名前		続柄		生年 月日	明・大・昭・平（西暦 年） 年 月 日（満 歳）
フリガナ				性別	男 ・ 女
お名前		続柄		生年 月日	明・大・昭・平（西暦 年） 年 月 日（満 歳）

■ご連絡先について

☐ ご自宅 ☐ 会社・学校 ※どちらかにチェックをおつけください。			
会社名 学校名等	※ご連絡先が「会社・学校」の場合にご記入ください。		
	部署：	役職：	
ご連絡先 住 所	〒 —————		
TEL	() —	FAX	() —
携帯電話	緊急時 連絡可・不可		
電子メール	@		
喫煙の有無	☐ 有 ☐ 無 ※部屋割りの参考にさせていただきます。		
●ご希望などございましたらお書きください。 ・お肉なしを希望、土日どちらかのみ参加希望、など。			

↑ FAX送信先：0265—28—1748 ↑

（株式会社南信州観光公社）